

第 55 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

議事メモ

日 時：令和 2 年 10 月 12 日(月) 10:30～11:25

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

1 参加者

玉城 知事、謝花 副知事、富川 副知事、島袋 政策調整監、
金城 知事公室長、池田総務部長、宮城企画部長、松田 環境部長、
宮沢 県警本部長、名渡山 子ども生活福祉部長、大城 保健医療部長、長嶺 農林水産部長、
嘉数 商工労働部長、渡久地 文化観光スポーツ部長、上原土木建築部長、
伊川 会計管理者、金城教育長、我那覇 病院事業局長、棚原 企業局長、
系数 保健衛生統括監、真栄城 医療企画統括監

2 報告事項

<冒頭>

- 保健医療部から、患者数の急増に伴い医療フェーズが 10 月 9 日で 3B から 4 に移行したことの報告があった。

(1) 沖縄県内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

- 総括情報部から昨日の新規陽性者の発生状況について報告
- 病院事業局から県立病院に入院している患者の状況等について報告
 - ✓ 宮古島にて、焼き鳥屋関連で 3 人の陽性者が確認され、濃厚接触者は 50 人となっている。

(2) 米軍基地内における新型コロナウイルス感染症患者の発生等について

- 総括情報部から昨日の米軍基地関係の新規陽性者の発生状況について報告

(3) 沖縄県内及び全国の感染状況について

- 総括情報部から昨日の警戒レベル判断指標の状況について報告
- 総括情報部から一週間あたりの新規感染者数の全国比較（人口比率）について報告

- ✓ 人口比率あたり感染者数は、9日連続で全国ワースト1位が続いている。
- 総括情報部から専門家（疫学統計解析チーム）による分析結果について報告
 - ✓ 実効再生産数（R）は、9月中旬頃から上昇していたが、10月に入ってから落ち着いてきており、直近では1.01となっている。気温が下がり、クーラーを止めて換気が出来ていることが一つの要因と考えられる。
 - ✓ 今後は、1週間160名（1日20～30名）で推移するとみられる。
 - ✓ 現在は、若者が検査を受けなくなっていることが懸念される。また、高齢者施設等でクラスターが発生すると感染者は急増するので注意が必要である。

（４）宿泊施設の運用状況について

- 軽症者用宿泊療養施設の運用状況について報告
 - ✓ 保健医療部から、北部地域における宿泊療養施設について、先週契約を行い、10月第4週開設を目指していると報告があった。30室の運用を予定。

（５）沖縄県緊急事態宣言後の状況について

- 総括情報部から KDDI Location Analyzer の滞在人口分析データを用いた状況について報告

（６）クラスターの発生状況について

- 総括情報部からクラスター発生状況について報告

（７）9月の感染拡大実例からみる対策について

- 総括情報部から「9月の感染拡大実例からみる対策」について報告
 - ✓ この資料は、感染経路不明な1名から、職場での会合会食で同僚や店員に感染し、そこから同居家族、さらには祖父母まで感染拡大した事例を示し、県民に

対し注意喚起を図るため、先週総括情報部からマスコミ向け公表を行ったものと説明。

<主な意見>

- 富川副知事から、感染防止対策の周知徹底等のため広報は引き続き重要だが、今後どのような広報を展開していくか質問があった。
- ✓ 総括情報部から、感染防止については保健所をとおして指導しているところであり、注意報はまだ考えていないが、地区ごとに必要であればやっていく旨の説明があった。
- ✓ 知事から、新聞等の報道では資料の「参考事例」部分のみ掲載され、「望ましい対策」は載っていなかったため、広報課にて県 HP 等へ掲載するよう指示があった。
- ✓ 保健医療部から、今後も参考事例の作成を検討していると報告があった。

3 その他

- 総務部から、コロナとあわせてインフルエンザに関しても感染者数やワクチン接種数について、過去3年分のデータを出して欲しいと要望があった。
- ✓ 総括情報部から、インフル感染者数は全数ではないが、定点的な病院での数は把握可能、ワクチンについて接種数は難しいが、(在庫から)掃き出した数は分かるかもしれない、いずれも確認すると説明があった。
- 知事公室から、今後の病床数確保の方法について質問があった。
- ✓ 総括情報部から、中南部は入院調整が難航してフェーズ4となっており、入院者を転院させるのは容易でないこと、OCAS(各病院のデータ)をよく見て、地区をさらに細分化して対応していくこと、北部は比較的余裕があるので、中南部の軽症者等を入院させることも検討していることについて、説明があった。
- 謝花副知事から、①国際線に関する対応、②介護従事者等への定期的なPCR検査の実施、③サトウキビ援農隊等その他のエッセンシャルワーカーへのPCR対

応について質問があった。

- ✓ 総括情報部から、①について、那覇空港においてどこまで検査対応していくか、文化観光スポーツ部、企画部とも連携して今週中には考えをまとめたいと説明があった。
- ✓ 保健医療部から、②③について、エッセンシャルワーカーの定義は定まっておらず、その数がかかなり多くなることから、部としてはクラスターが発生した繁華街や施設等での検査を実施することを想定しており、その他エッセンシャルワーカーについては、各企業の理解を得て、民間の検査機関を活用して自主的にやってもらうことを考えていることから、民間の検査機関拡大を進めているとの説明があった。

4 閉 会